



一宮町長
馬淵 昌也

一宮町は、国連が進める「クリーン・シーズ」プロジェクトの、国際オリンピック協会チームの一員です。そのクリーンシーズの一環として、一宮中学校で、マイクロプラスチックの海洋汚染について、東京農工大学の高田秀重教授による講演が開かれ、わたくしも参加いたしました。

高田教授は、プラスチックとはなにか、ということから、プラスチックが海の中に流れ込んで、だんだんと小さくなってゆくこと、そしてプラスチックごみが生き物に有害であることを詳しくお話くださいました。現在、すでに膨大なプラスチックごみが海にたまっていくそうです。大きなプラスチックごみは、ウミガメやワジラなどが飲み込んで、胃の中に溜まってしまい、命を落とす原因となります。細かくなったマイクロプラスチック(5ミリ以下のプラスチックのかけら)は小さい生き物が飲み込み、食物連鎖により、大きい生き物の体内に入っていくのですが、マイクロプラスチックから出る有毒物質が健康被害をもたらす可能性がありますのだそうです。高田教授のお話は、教授自身が海で拾われたさまざまな実物を使っての生き生きとした

進行で、聞き手の中学1年生諸君は、すっかり吸い込まれていました。

先生からの指示があつたそうですが、生徒さんが、聞きながら膨大なノートをとっているのにまず驚きました。取材に訪れた記者の方も、びっくりしていたはずです。そして、質問コーナーで出てきた質問にも、驚かされました。ある生徒さんが、「プラスチックは、生物由来の石油からできているのに、どうして生物に分解されない安定したものになるのですか」という質問をしました。高田教授は、化学的処理を重ねてつくるから、と回答されましたが、こうした質問は、大学の学生でも出てこないすべれた発想だ、と仰っていました。そのほかにも、リサイクル率に関する質問などもあり、中学生諸君の集中力、そして鋭い理解力に感心いたしました。

政府の予想では、2050年には、魚の総重量より、プラスチックごみの総重量の方が重くなるそうです。今回の講演をきっかけに、中学生諸君が、プラスチックを多用することの危険性に自覚を高めてくれることを強く期待します。